

仙北市読書感想文

コンクール



「平成28年度仙北市読書感想文コンクール」が行われ、応募総数169点の中から仙北市長賞に高橋梓さん（小中学校の部・角館小4年）、高橋瑠愛さん（高校の部・角館高1年）が選ばれました。

2月26日に仙北市総合情報センターで表彰式が行われ、入賞者に表彰状と記念品が手渡されました。仙北市長賞の受賞作品（原文）と審査結果を紹介します。

仙北市長賞

小中学校の部



私とお母さんの取扱説明書

角館小4年 高橋 梓

ゲームやおもちゃ、家庭で使う電気製品には、使い方や、使うときに気をつけることが記されています。「取扱説明書」が読めます。私は「かあちゃん取扱説明書」という題名にひかれました。物ではなく人の取扱説明書ってどんな話だろうとドキドキしながら読みました。

ちゃんに「早く。」と言われていました。私もつやとよく似ています。バスケットの練習があった日は、帰ってくるにつれてしまい、宿題もなかなか進みません。朝の準備も眠くてボーっとしているとお母さんから、「梓、急いで。遅れるよ。」と言われます。だから、つやの「早く」と言われたくない気持ちがよく分かります。私もお母さんに何か言われるともっとやりにくくなります。

そんなつやがかあちゃんを自分の思い通りに動かすために「かあちゃん取扱説明書」を作りました。自分の好きなおかずを作ってもらうために母ちゃんのきげんをとってほめたり怒られないように、勉強したふりをしたりするとよいことを書いていました。私も「早くして。」「遅れるよ。」と言われることのないように、お母さんの取扱説明書を作ってみました。私がお母さんの取扱説明書を作るならお母さんの行動や口ぐせをよく見て、だれにも作ることのできないオリジナルの説明書にします。自分が作るならと考えていると、初めはお母さんを自由に動かしたいと思って考え始めたけど、お母さんの喜ぶことやお母さんの良いところがた

くさん見えてきました。そのとき気がきました。もしかしたら、お母さんが一番みんなの気持ちを分かっているのではないかと。何も言わなくても、私の好きなおかずを作ってくれたり、朝起きるのが苦手な私が、遅刻しないように声をかけてくれたりしているお母さんの頭の中には、きつと、家族一人一人の取扱説明書があるのではないかと思えます。私を助けてくれたり、いつもじつじつ話を聞いているお母さんだから私の気持ちも見抜いているなあと感じました。だからこそ、ちよつと怠けたいなあと思うときこそ「早く。」という言葉がかけられるのです。それは、私が、困らないように、後から、苦しい思いをしないようにというお母さんの思いがこめられていると思えます。

- 審査結果（敬称略）**
- 小中学校の部
 - ▼仙北市長賞 高橋梓（角館小4年）
 - ▼新潮文庫賞 佐藤そら（神代中1年）
 - ▼角館図書館後援会長賞 田口悠（角館小5年）
 - ▼千葉里桜（角館中2年）
 - ▼仙北市教育長賞 佐藤亜耶希（神代小1年）
 - ▼津嶋こみ（神代小1年）
 - ▼小学校低学年（1・2年）の部入選 平岡結季（神代小1年）
 - ▼村岡すみれ（角館小2年）
 - ▼小学校中学年（3・4年）の部入選 門脇なみ（松木内小3年）
 - ▼島山紗依（西明寺小3年）
 - ▼佐藤幸音（神代小4年）
 - ▼小学校高学年（5・6年）の部入選 武藤楓（角館小5年）
 - ▼高橋圭一郎（角館小6年）
 - ▼川越聖香（角館小6年）
 - ▼中学校の部入選 村上匠（松木内中1年）
 - ▼澤山直（西明寺中1年）
 - ▼小学校低学年（1・2年）の部 佳作 山口海嘉（神代小1年）
 - ▼鈴木叶愛（角館小2年）
 - ▼小学校中学年（3・4年）の部 佳作 赤倉光莉（西明寺小3年）
 - ▼草薨陽菜（白岩小3年）
 - ▼伊藤希彩（角館小4年）
 - ▼小学校高学年（5・6年）の部 佳作 佐々木彩愛（角館小5年）
 - ▼菅原陽彦（生保内小5年）
 - ▼草薨美紅（生保内小6年）
 - ▼中学校の部 佳作 安枝凌（角館中2年）
 - ▼渡邊菜月（角館中2年）
 - ▼高校の部
 - ▼仙北市長賞 高橋瑠愛（角館高1年）
 - ▼新潮文庫賞 佐々木美有（角館高1年）
 - ▼角館図書館後援会長賞 三沼蓮（角館高1年）
 - ▼仙北市教育長賞 藤嶋健人（角館高1年）
 - ▼入選 手代木ひかる（角館高1年）
 - ▼高橋彩香（角館高1年）
 - ▼佐藤雛（角館高1年）
 - ▼佳作 小林凛夢（角館高1年）
 - ▼島山鈴夏（角館高3年）

仙北市長賞

高校の部



よく生きるために

角館高1年 高橋 瑠愛

私は、この本を読み、自分の人生を送る上での重要な課題について深く学ぶことが出来ました。この本を手にとったときは、自分の興味のある学問や職業を調べたときに、ふと何故私は義務教育を終えたのに高校に通っているのだろう、何のために働きたいのだろうという素朴な疑問が生まれたからです。私の中で、中学を卒業して高校に入ることや職に就くことは当然のことになっていましたが、改めて働くことの意味を学びたいと思いました。

私には、働くという事は単純にお金を稼ぐことや生きるために必要な手段だと考えていました。それに加えて、どうせ働くなら自分の好きな、もしくは興味のある事柄に関係のある職業ならいいだろうという安易な考えを抱いていました。実際に、生きるためには働かないわけには

はいかないと思えます。私の考えと筆者の考えの一番の違いは「生きるため」と「よく生きるため」だと思います。私の考える「生きるために働く」と筆者の考える「生きるために働く」はほぼ同じ意味ですが、その先の「よく生きる」という考えは私の辿り着けていない考えでした。自分の中の課題を見つけて、それを解決するために悩んだり、もがいたりして自分をレベルアップさせていく何かを得ることが筆者の言う「よく生きる」ということだと考えました。また、働く中で、対人関係は必ずと言って良いほど関わってくるものだと思います。私は、いくら頭が良くてもいい職に就いた人でも性格が悪かったり、周囲の人間に関わらなかつたりすると果たしてそれは良い人生だったと言えるのかと疑問に思えます。働く中で絶対に周囲の人間との関わりは大事になってくると思うので、上司や先輩、そして同僚という関係を築くために工夫したり、考えたりすることも筆者の言う「よく生きる」の内に入るのではないかと思えます。「よく」が付いているか付いていないかで意味が大幅に変わっていくものだと感じさせられました。

また、私がこの本の中で大事だと思った言葉は「今」を楽しむという言葉です。明日、来月、来年など未来のことを考えるのではなく今この瞬間を楽しむ仕事をすることです。筆者の言う、自分に価値があると思えば、そんな自分を肯定できるためには、自分が誰かの役に立っている、貢献していると思えることが必要です。その時、自分のことを肯定できるのであり、そのような仕事であれば楽しむことができるという言葉を働くことの意味としてとでも納得できました。自分が働くことで生きがいを感じるために貢献感を感じたいと分かっていました。自分がやっていて楽しくない、やりがいを感じることが出来ない仕事と自分がやっていて楽しいと感じることが出来る仕事とでは自分にとってプラスになるもの、得られるものが違うだろうなと思えました。別に、自分をレベルアップさせる必要はないと思っている人もいます。しかし、私たち人間は他人より上だとか自分では出来るだとかそんな優越感みたいなものに浸っていないと自分に自信が持てなくなってしまう生き物だと思えます。だからこそ、他人を見下すことがなく自分に価値がある

そして、「よく生きる」ためにもその仕事に就けるように一生懸命勉強したいと思えます。

読んだ本 『アドラーに学ぶよく生きるために働くということ』 (ベストセラーズ)



表彰式に出席された皆さん。表彰状と記念品が手渡されました。

▼主催：仙北市教育委員会
▼後援：角館図書館後援会、株式会社新潮社
▼問合せ：仙北市総合情報センター・学習資料館 ☎(43) 33333